

音合わせ心ひとつに「ら」でチューニング… Central Aichiの情報をお届け

定期演奏会ブラームスイヤーのフィナーレ!

「ブラームス、ブラームス、ブラームス」を合言葉に繰り広げてきた定期演奏会もあと2回。新年の幕開けはクラリネットソナタとブラームス最後の交響曲 第4番。そして2月は、美しいヴァイオリン協奏曲。ベートーヴェン 交響曲 第5番「運命」の力強い音楽とともに、心の中に永遠の感動を刻みます。しらかわホールでの最終回、新たな年度へ向かう華々しいフィナーレ、ぜひ一緒に!

PIC UP

01

第201回定期演奏会 ～冬～

指揮 **齊藤一郎**

SPECIAL INTERVIEW

ブラームスシリーズの定期演奏会も終盤になりましたが、齊藤さんは今回の演奏会をどのようなものにしたいとお考えですか?

短い期間にブラームスという一人の作曲家に焦点をあて、名演を展開してきたセントラル愛知交響楽団の皆様には敬服いたします。私が常任だった時に取り上げた交響曲は4番と2番でした。今回再び4番を指揮できることはこのうえない喜び、感謝の思いでいっぱいです。プロの世界では「ブラームスの演奏を聴けばオーケストラの実力がわかる」と言われています。現在のセントラルはこれまでで一番の高みに到達しているはず。楽団員の皆様とともに質の高い音楽をお客様にお届けできるよう、一心不乱に指揮台に上がるつもりです。

齊藤さんはブラームスにはどんな思いをお持ちですか?

指揮者なら誰しも、その人を指揮者とならしめた感動体験を持っているでしょう。私にとっては1986年にミュンヘン・フィルがセルジュ・チェリビダッケとともに初来日した公演がそうです。この時演奏されたブラームスの交響曲第4番はまさに身体中に電流が流れるような凄まじい音楽でした。その十年後、芸大指揮科で私が学んだ師匠はチェリビダッケの弟子でした。当時マーラーが流行っていましたが、師匠は「シンフォニーの最高峰はブラームスである」といつも言っていました。今はその気持ちがわかります。

ブラームス作品は交響曲第4番の他に、今回はクラリネットソナタ(管弦楽版)も演奏されます。この公演全体の聴きどころをお聞かせください。

作品120の2曲のクラリネットソナタにはヴァイオリン版があり、調も構成も全く同じです。ヴァイオリン奏者にとっては大変重要なレパートリーで、オーケストラ入団の最終オーディションでは必ずこの曲が選択肢にあります。私も何度か伴奏をしたことがあります。この曲は4番の交響曲から10年後、ブラームスの円熟期に書かれ、音楽の造形を究極の美しさまで導いた作品です。ロサンジェルス・フィル委嘱によるペリオのアレンジは、「ブラームス先生に怒られないよう敬意をもって編曲します!」という声から聞こえてきます。クラリネット奏者が人生を賭けることのできるレパートリー。幾多の名演をセントラルで繰り広げてくれた箱崎さんのソロに是非注目して下さい。



©Studio Diva

PIC UP

02

第202回定期演奏会 ～高みに向かって～

ヴァイオリン **神尾真由子**

SPECIAL INTERVIEW

2019年に活動拠点を日本に移されて、現在大学で教鞭をとりながらの演奏活動です。両立する上で何か心がけていらっしゃることはありますか?

生徒、そして息子(8歳)には、言葉による指導ではなく背中です、ということを中心に心がけています。先生(親)がだらしない様子を見せたら、一瞬で尊敬を失うので、自分がまず真面目に仕事に取り組んでいる様子を見せたいと思っています。

当団とは過去に2回共演いただきましたが、どのような印象をお持ちですか?

とても暖かいメンバーの方で、安心して演奏できた記憶があります。

当団の今年度定期演奏会のテーマは「ブラームス・ブラームス・ブラームス」ですが、ブラームスには神尾さんはどんな印象をお持ちですか?

偉大なるメロディーメーカーであり、ハーモニーメーカーであると思います。ブラームスの良さは幾十にも重なった層の厚みが繊りな色彩感にあると思うので、楽器数の多いオーケストラの音楽が真骨頂だと思います。

今回はブラームスのヴァイオリン協奏曲で共演していただきます。

初めて演奏したのは15歳くらいの時でしたが、「伴奏」っぽいパートも多いので難しく感じました。しかしながら、第2テーマや、第1楽章終盤の美しさは筆舌に尽くし難いものがあり、とても感動して、当時、自分自身で第2テーマの着メロを作りました。今もその時感じた想いに変わりはありません。

神尾さんとの演奏会は当団40周年のアニヴァーサリーイヤーの最後を締めくくる演奏会となります。来場される皆さまにメッセージをお願いいたします。

記念すべき演奏会に呼んでいただき光栄です。指揮者の角田さんと共に、締めくくりに対応しい演奏ができるように張り切って演奏したいと思います。

今後取り組まれる作曲家や楽曲を含め、ご自身の音楽活動の展望をお聞かせください。

まずは、いただけるお仕事をできる限りやりたいと思っていますが、最終的には裾野を広げる活動にも挑戦していきたいと思っています。



©Makoto Kamiya



24 **1/19** 金 [開演 18:45] 三井住友海上しらかわホール
プラチナ¥6,000(完売) A¥5,000 B¥4,000 C¥3,000 U25¥1,000
第201回定期演奏会 ～冬～
◎出演/齊藤一郎、箱崎由衣(Cl)
◎曲目/ホルスト:冬の牧歌、ブラームス(ルチアーノ・ペリオ編曲):クラリネットソナタ 第1番 へ短調 Op.120-1(管弦楽版)、ブラームス:交響曲 第4番 ホ短調 Op.98



24 **2/23** 金祝 [開演 14:30] 三井住友海上しらかわホール
プラチナ¥6,000(完売) A¥5,000 B¥4,000 C¥3,000 U25¥1,000
第202回定期演奏会 ～高みに向かって～
◎出演/角田鋼亮、神尾真由子(Vn.)
◎曲目/ステンハンマル:演奏会用序曲「エクセシオール! (天の高みに昇らん)」、ブラームス:ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.77、ベートーヴェン:交響曲 第5番 ハ短調 Op.67

2024年度 ラインナップ発表!



▲年間ラインナップの
詳細はコチラ

11月6日(月)2024年度自主公演のラインナップが発表されました。

定期演奏会[全7回]は「新しい景色、新しい音世界」をテーマとし、好評の「Wコンチェルト」、「超!有名曲」のシリーズに加え、「オペラハイライトシリーズ」が新たにスタート。5回目を迎える「ハイドンのロンドン精神」では、交響曲の父ハイドンの晩年の作品に光をあてます。年末には市民の合唱による「悠久の第九」を開催。



◆ 角田音楽監督就任・ 2024年度ラインナップ発表

去る11月6日、当団は名古屋市内で記者発表を行い、2024年度の主催公演ラインナップとともに、現常任指揮者の角田鋼亮が音楽監督に就任することを発表しました。登壇者は角田のほか、同楽団理事長の山田貞夫、副理事長の中西政男、常務理事の瀬戸和夫ら4名。角田の音楽監督の任期は24年4月より5年間で予定しています。2023年度は常任指揮者として5シーズン目を迎え、角田と楽団員との意思疎通も深まり、楽団のアンサンブル能力も格段と高められました。そして新年度は音楽監督として、主催公演の企画や制作のほか、事業運営にも関わっていただきます。来年度は三井住友海上しらかわホールの閉館に伴い、本拠地が愛知県芸術劇場コンサートホールとなります。ラインナップは定期演奏会のほか、新たに「オペラハイライトシリーズ」3公演を加えた3つのシリーズを柱にして公演を行います。

指揮者 角田鋼亮 SPECIAL MESSAGE

楽団とは長く音楽的なお付き合いを深めてまいりました。これまでも日々進化し続けるアンサンブルと、幅広いプログラムで個人的には非常に充実感を感じておりました。2024年度からの音楽監督就任にあたり、さらに楽団全体の魅力を高めることを期待されていると思います。今はその責任を強く感じています。そして来年度から本拠地をしらかわホールから愛知県芸術劇場コンサートホールへ移すこともあり、定期演奏会のテーマを「新しい景色、新しい音世界」としました。その中心に据えたのは、206回のアーサー・ブリス「色彩交響曲」です。彼は紋章学に興味あって、楽章ごとに紫、赤、青、緑とそれぞれの色に応じたイメージで作曲を試みています。私の思い入れのある楽曲です。幕明けの203回では今年度のテーマだったブラームスのピアノ四重奏曲を、シェンベルク編で新しい音色を楽しんで頂きます。このように新たな景色、音色をそれぞれの演奏会で楽しんでもらえればと思います。変わりゆくセントラル愛知交響楽団に、皆さまには期待感を持って注目いただければと思います。

レクチャー講座

今年度から常任指揮者 角田鋼亮によるレクチャー講座(参加費無料、一般公募抽選)を開催しています。定期演奏会などの演奏曲を取上げ、角田氏作成の資料に基づいて、楽譜の進行と対応した曲の構成、作曲家の意図などを説明。参考音源、ピアノや楽団員による生の演奏を聴いていただくなど、いろいろな角度から学べる講座となりました。レクチャー後には、楽団員を交えた交流タイムを設けました。参加者からは講座内容に関する質問の他に、楽団員への様々な質問も飛び出し、その一問一答に会場は大いに盛り上がりました。演奏者と聴衆という垣根を取り払い、指揮者や楽団員と直接対話できる交流の機会となって参加者に好評でした。レクチャー講座が鑑賞の助けや予習となり、音楽に親しんでいただけるきっかけになれば、と考えております。今後も趣向を凝らして開催していく予定です。開催については当団ホームページなどでご案内しますので、ご確認ください。



マーシー山本教授の クラシック こぼれ話

ハ〜イ皆さん! マーシー山本で〜す。このコラムのコーナーも4回目になりました。

さて、今回は2023年度定期演奏会の主役「ブラームス」の恋愛についてお話します。

20歳の若きブラームスは自作のピアノ曲を持ってシューマン家を訪ねます。そこで、シューマンの妻クララに出会い、一目で魅了されてしまいます。それから1年後、シューマンはライン川に投身自殺を図り、一命はとりとめたものの闘病生活が始まります。その知らせを受けたブラームスはすぐクララの元に駆けつけ、なんと住み込みでクララと子供達を支えます。そ

れはシューマンが亡くなるまでの2年間に及びます。その間に家計簿を付けていたこともわかっています。このことからブラームスがクララを愛していたのは間違いないと思います。友人や子供たちの証言でも、クララもブラームスを愛していたことは間違いありません。ブラームスとクララの歳の差は14歳。恩師の妻とのスキャンダルは当時でも噂になったようです。入院中のシューマンも二人の関係に気づいていたようで、亡くなる直前クララに語った言葉「私は、全てを知っている!」。意味深ですね。今でも学者の間では二人の関係について論争されています。皆さんはどう思いますか?



オーケストラ・キャラバン

「オーケストラ・キャラバン」は、文化庁のアートキャラバン2(統括団体による文化芸術需要回復・地域活性化事業)により開催されており、新型コロナウイルス感染症によって、芸術に触れる機会が遠のいた人々に再び鑑賞する喜びを体験していただくとともに、文化芸術の質の向上や重要性和魅力の発信を目的としています。初年度(2021年)は21のオーケストラが全国各地で47公演開催。今年は32のオーケストラが参加し、公演数は105公演にのぼり、クラシック音楽への興味関心を高めるきっかけにもなっています。

当団は2021年に浜松市、石川市、2022年に

高山市で公演を行い、今年は四日市市で「超!有名曲シリーズin四日市」と題し開催。当団常任の角田鋼亮指揮のもと、三度目の共演となるヴァイオリニストの辻彩奈さんはメンデルスゾーンのヴァイオリン協奏曲を情熱的に演奏し、楽曲の魅力を見事に表現しました。また、チャイコフスキーの名作『くるみ割り人形』では、親しみやすいメロディで会場が満たされ、初めてオーケストラに触れた聴衆も明るい表情で楽しみました。尚、辻彩奈さんは2024年6月の当団第204回定期演奏会(指揮:大友直人)にも出演されます。アンケートでも希望の多いシベリウスのコンチェルトです。乞うご期待!

学校巡回公演 2023

今年度も文化庁の舞台芸術等総合支援事業「学校巡回公演」として、小学校へ訪問してオーケストラの生演奏をお届けしています。10月には福井県の福井市、大野市、越前町の小学校3校、また11月から12月にかけて福井県の敦賀市、小浜市と石川県の加賀市、小松市の小学校4校を訪問しました。

この演奏会では、クラシックの名曲やロック調の曲を含めた演奏を鑑賞してもらう他、事前訪問のワークショップで指導した児童たちとの学校の楽器を使用した共演や、全校児童との手拍子、足拍子を組み合わせた共演を行いました。

また、楽器紹介コーナーや、指揮者体験コーナーでは身を乗り出して聴き入る子どもたちの様子が印象的でした。

この「学校巡回公演」の他にも、9月から12月中旬までに愛知県、岐阜県、三重県の小・中・高校22校に訪問して演奏を鑑賞していただきました。

児童・生徒が生徒のオーケストラを聴くという「心に響く感動体験」ができるこの貴重な機会を通して、音楽への興味・関心が芽生え、多くの子どもたちが「音楽大好き!」になってくれたら…と願っています。



指揮者体験



オーケストラ演奏で校歌斉唱

児童の感想

オーケストラのみなさんが有名な曲を弾いてくれたのが嬉しかったです。すごかったことは、みなさんが60人でいろいろな楽器を使っているけど、ちゃんとひとつの曲になっていて一心同体になっているのが分かったことです。(3年生)

私が残ったことは2つあります。1つ目は指揮者体験コーナーです。私は好きな曲でもある「ハンガリー舞曲」を指揮しました。オーケストラのみなさんが私のテンポに合わせてくれて、うれしかったです。2つ目は校歌です。オーケストラのみなさんが学校の校歌を演奏してくれました。私たちが歌っている時、いつもと雰囲気の違いが楽しかったです。(5年生)

先生からのお礼

おかげさまで、楽しい時間を子どもたちも大人たちも過ごすことができました。また、音楽(オーケストラ)に対する興味・関心が高まった児童生徒も多く、将来、楽器を奏でたいという希望を持った児童もいました。これもひとえに、貴交響楽団の皆様のお力によるものと深く感謝いたします。

なごや子どものための巡回劇場 『ハローオーケストラ』

「なごや子どものための巡回劇場」は、日ごろ生の舞台に接する機会の少ない子どもたちに、テレビなどでは味わえない感動を伝えたいと1980年に始まりました。当団は名古屋市文化振興事業団と共催で『ハローオーケストラ』を開催。楽しみながらオーケストラのことを知っていただけます。

24 **3/26** 千種文化小劇場 **24** **3/27** 緑文化小劇場
 [開演(各日) 11:00、14:00]
 全自由席 ¥750(3歳未満は保護者のひざ上での鑑賞) ※未就学児入場可
 ◎指揮/阿部未来 ◎司会/加藤恵利子



金城学院大学×セントラル愛知交響楽団メンバーによる室内楽コンサート2023

24 **3/6** 水 [開演 19:00]

電気文化会館ザ・コンサートホール
 全指定席 ¥2,000 ※未就学児入場不可
 ◎ソリスト/金城学院大学文学部音楽芸術学科生 ◎弦楽四重奏/セントラル愛知交響楽団:寺田史人・吉岡秀和(Vn)、小中能会真(Va)、本橋裕(Vc) ◎曲目/モーツァルト:フルート四重奏曲、オーボエ四重奏曲、シューマン/ヴォルガーーク/フォーレ/フランク/ブラームス:ピアノ五重奏曲

オーケストラ Q&A



「オーケストラQ&A」の質問募集

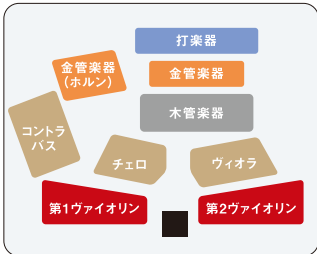
セントラル愛知交響楽団ホームページ内の「rara-ca」ページにある質問フォームから、オーケストラについて疑問に思っていること、聞いてみたいことなどお送りください。
<https://www.caso.jp/faq-form/>



Q1 オーケストラの楽器配置はどのように決めているのですか？

A 演奏会のオーケストラ配置は時代や状況によって変化してきました。バロック時代には配置はまだ固定的ではなく、流動的でした。19世紀にはフルート、クラリネット、トロンボーンなどがオーケストラ編成で標準となり、弦楽器、木管・金管楽器、打楽器の基本的な配置が固まりました。ロマン主義の時代には、弦楽器は第1と第2ヴァイオリンを前面に広げる配置(対向配置)が好まれました。20世紀に入ると、指揮者レオポルド・ストコフスキーは合理的で効果的な配置を模索し、第1・第2ヴァイオリンを左側に寄せる配置を提案しました。これは音響的な効果を最大限に引き出すことができ、観客席にも楽器の響きが効果的に伝わりました。現代のオーケストラではこの配置が主流となっていますが、対向配置とする場合もあります。公演での配置は作品の性格や指揮者の意向に応じて決られます。未来のオーケストラの並び方にも影響を与えており、柔軟性と適応性を持ったオーケストラの配置が求められています。(音楽主幹/山本雅士)

◎ 対向配置



◎ ストコフスキー配置



Q2 ホルンは右手を楽器に入れて演奏していますが、どんなことをやっているのですか？ また、管の長さはどれくらいですか？

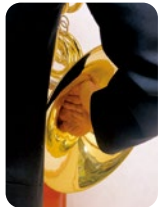
A ホルンは、後ろ向きに音が出ます。そして、ベル(またの名をアサガオ。音の出口の部分)に手を入れて演奏する…オーケストラの中において、なんとも特殊でミステリアスな楽器です。金管楽器の中では、コントロールが難しいことでも知られていますが、それは、マウスピースと管の長さ、そしてベルの大きさが全く釣り合っていないせいなのです。トランペットくらいのマウスピース(入口)に、トロンボーンより大きなベル(出口)。でも管の長さは短いチューバに匹敵します! その長さ、なんと3.6メートル。サバを読んで4メートルと言っていますが…(笑)では、問題の右手は何をしているのか? 特殊奏法で音色を変えることもあります。実は『音程を調節するため』と『ホルンらしい音色を作るため』で、あまり動かしてはいけません。そもそも、なぜ右手を入れるようになったかと言うと、200年以上前のホルンは一本の管を巻いただけのものでした。出る音が限られていた(ドミソ)ののですが、ある時試しに手を入れてみたらビックリ! ドレミファソラドが吹けるようになったのです。それ以来、息の通り道の長さを変えるローターリーが発明された今でも、昔の名残で右手を入れ続けているんですね。(ホルン/八木健史)



ベル(アサガオ)



伸ばすと約4mにもなる管長



演奏中の右手

今後発売予定の「セントラル愛知交響楽団」公演情報

'24 4/27^土 角田鋼亮音楽監督就任記念 第203回定期演奏会〈新しい音色〉

【会場】愛知県芸術劇場コンサートホール 【開演】14:30

◎出演/角田鋼亮、務川慧悟(P)*
 ◎曲目/ヨハン・シュトラウスII世:皇帝円舞曲 Op.437、ベートーヴェン:ヴァイオリン協奏曲 二長調 Op.61 (ピアノ編曲版)*他

'24 5/31^金 第204回定期演奏会〈フィンランドの景色〉

【会場】愛知県芸術劇場コンサートホール 【開演】18:45

◎出演/大友直人、辻彩奈(Vn)* ◎曲目/シベリウス:ヴァイオリン協奏曲 二短調 Op.47*、交響曲第2番 二長調 Op.43

'24 5/12^日 Wコンチェルト 松田華音 Vol.2

【会場】愛知県芸術劇場コンサートホール 【開演】14:30

◎出演/齊藤一郎、松田華音(P) ◎曲目/ラフマニノフ:ピアノ協奏曲第2番、第4番

'24 6/9^日 オペラハイライトシリーズ Vol.1 プッチーニ「トスカ」

【会場】愛知県芸術劇場コンサートホール 【開演】15:00

◎出演/角田鋼亮、宮本益光(演出)、木下美穂子(トスカ)、福井敬(カヴァラドッシ)、今井俊輔(スカルピア男爵)
 ◎演目/プッチーニ:歌劇「トスカ」ハイライト、オペラアリア特集

定期会員募集

新規定期会員を2024年1月17日から受け付けます。2月29日までにお申込みの方にはいずれかご希望の公演をご招待!

'24 6/29^日 「超! 有名曲シリーズ Vol.6 イギリス」

'24 7/21^日 「Wコンチェルト 成田暉輝 Vol.1」

※詳細はホームページをご確認ください。
<https://www.caso.jp/concert/#concert9229>



早割セット券

「Wコンチェルト」「オペラハイライト」の各シリーズは、シリーズの全公演を毎回同じ席で鑑賞できる【早割セット券】を販売します。1回券の購入と比べて料金もお値打ちです。

早割セット券発売日 2024年1月31日(水)

※詳細はホームページをご確認ください。
<https://www.caso.jp/concert/#concert9231>



「1回券の一般発売日」2024年2月21日(水)

賛助会員・リスナー会員になると、チケットの優先予約・会員割引の優待が受けられます。



会員申し込みはコチラから

「rara-ca」はインターネットでご覧いただけます。

セントラル愛知交響楽団のホームページ内に「rara-ca」のページを作成しました。パソコンやスマホで、今回の最新号だけでなくバックナンバーも、いつでもどこでもご覧いただけます。ご利用ください。



<https://www.caso.jp/rara-ca/>

チケットシステムご利用のご案内

各公演のチケットはホームページのチケットシステムでご購入いただけます。スマホやパソコンから24時間いつでも、自分で座席を指定してチケットを購入することができます。ぜひご利用ください。



【チケットシステム】※定期メンテナンス中はサービスを一時停止します。
<https://yyk1.karuku.com/caso-s/showList?lf=0>
 ◎購入可能なチケットは、チケットシステムの「公演一覧」にてご確認ください。